下される約束をなされ，大に樂しみを感じてをるのである。右洞は今や文部省より天然記念物として指定を受けてをるが，土地の邊鄙なると人を招く丈けの設備を缺く爲め，折角の記念物もそれほど世に知られずにある。若しこれに幾千圓を投ずるものがあり，せめて通常着のまゝ内部に入ることができるだけに人工を加へたならば，多くの人を招來し得，土地の爲にもなり，又どんな有益な研究が飛び出さぬとも限らぬと思ふ。蜘蛛同好家も一見すべき處ではあるまいかと思ひ玆に禿筆を呵したのである。

龍 河 洞 の 蜘 蛛

石 川 重 治 郎

龍河洞は高知市の東方20粁の所にある下部三疊紀の奥化石灰白色の石灰洞窟である。筆者は昨年５月頃から此所の動物を調査してゐるが既に50餘種の動物が棲息する事を確めた。内新種10，新亞種１が確認され夫々專門家によつて續々發表されつゝある。

蜘蛛は４種居る。内３種は新種である。最初に發見されたのが

1) *Leptoneta melanocomata* Kishida〔MS.〕　ケグロマシラグモ

全洞１粁の間に普く分布して棲息する。不規則棚狀の網を張り，年中活動してトビムシ，ミヅアブ１種等を食とする。６個の單眼は夜光眼で眞珠光澤に輝く。各部の測定は次の樣である。

1. 頭胸部……長さ　0.8 mm.　巾……0.5 mm.
2. 腹　部……長さ　1.0 mm.　巾……0.8 mm.
3. 第一肢……長さ　9.4 mm.
4. 第二肢……長さ　6.9 mm.